

エビデンスレベルの高い研究計画策定のために！

令和元年度 一般社団法人日本生活支援工学会 実証試験関連講座

『支援機器の実証試験と研究計画－EBM に学ぶ』

主催： 一般社団法人日本生活支援工学会
後援（予定）：公益財団法人テクノエイド協会
日時： 2019年11月14日（木）14:00～17:30
場所： 首都大学東京 秋葉原サテライトキャンパス C会議室
東京都千代田区外神田 1-18-13 秋葉原ダイビル12階
定員： 20名（事前申込制）
参加費：（一般）5,000円（資料付）
（日本生活支援工学会会員、賛助会員）3,000円
（資料付、※賛助会員は1社3名迄）

支援機器の効用について、エビデンスが問題になってきました。行政、利用者をはじめ、流通からも機器の効用にエビデンスが求められるようになりつつあります。開発側からは、「何を測定すれば効用を検証したことになるのか？」との質問が寄せられます。1990年代にカナダで始まったEBM（Evidence Based Medicine：根拠に基づいた医療）の動きは、アメリカでは2005年くらいに支援機器の世界に導入されました。しかし、我が国では、その普及が遅れています。一般社団法人日本生活支援工学会では、平成22年に倫理審査委員会を設置し、企業で開発された支援機器の実証試験のための倫理審査を行ってきました。そのなかで、科学的合理性の確保のためにはEBMに基づいた研究計画の策定が肝要であることを痛感しました。より多くのエンジニアがエビデンスレベルの高い実証試験の計画を策定できるために、本研修会を企画いたしました。

本研修会では、EBMの基礎であるPICO、仮説検証および支援機器実証試験の特性に応じたエビデンスの高い研究デザインについて易しく解説します。

プログラム（予定）：

13:30 - 14:00 受付
14:00 - 14:30 「支援機器の実証試験と倫理審査」
講師：諏訪 基（国立障害者リハビリテーションセンター研究所 顧問）
14:40 - 17:10 「EBMに基づいた実証試験の研究計画」
講師：山内 繁（NPO 法人支援技術開発機構理事長）
17:10 - 17:30 質疑応答

申し込み・問い合わせ先：

wsat@jswsat.org 日本生活支援工学会事務局
※件名に「実証試験関連講座申し込み」あるいは、
「実証試験関連講座問い合わせ」と記載してお送りください。

関連Webページ：

日本生活支援工学会 倫理審査受託事業 <http://www.jswsat.org/IRB.html>

